

現代民俗学会第20回運営委員会

【日時】：2012年1月28日(土) 午前10時00分

【場所】：東京大学東洋文化研究所第2会議室

【出席者】：石本敏也、及川高、小熊誠、門田岳久、菅豊、武井基晃、塚原伸治、徳丸亜木、中野泰、古家信平、渡部圭一

一. 会誌4号について(徳丸委員、渡部委員)

(1) 編集状況

投稿論文の査読・改稿状況、依頼原稿の寄稿状況について説明された。

誌面構成について、総ページが予算上限(399,100円)内に納まる見通しが立ったことが報告された。

(2) スケジュール

4号刊行について、年次大会直前の納品(3月23日入稿、5月11日納品)とするスケジュールの見直しが提案され、了承された。

これに関連し、第5号のスケジュールを約1ヶ月前倒しすることで、年度内刊行をめざす方針となった。

二. 今後の研究会について(菅委員、門田委員)

第13回研究会「社会学・口承文芸学におけるオーラリティ研究の展開—教育大系統の民俗学を相対化する—」(4月14日開催)の企画書が提出された。

第14回研究会「海外研究者がみた日本というフィールド～アメリカ研究者編～(仮)」(7月8日)が日本民俗学会談話会等と共催で行われることが報告された。なお、今期の研究企画委員会が企画する研究会はこの回までである。

三. 年次大会(2012年5月26日(土) 成城大学)に向けて(門田委員、武井委員)

(1) シンポジウム(門田委員)

年次大会シンポジウムの企画書が提出された。

タイトル：「民俗学的〈技法〉の構築を目指して—方法としてのナラティブ—」

登壇者：足立重和、法橋量、門田岳久

(2) 個人発表(武井委員)

年会午前中の個人発表のエントリー切および査読から採否の通知までのスケジュールが確認された。査読委員は会長および各委員長に委嘱された。

(3) プログラム、日程素案(武井委員)

年会に向けての予定、および年会当日のプログラム(個人発表、総会、シンポジウム、選挙)の案が示され、了承された。

今後の予定（概要）

月日	年会関連	選挙
3月	登壇者の調整（依頼状）	3月末、選挙権・被選挙権確定
4月14日（土）	第13回研究会	4月下旬サイトにて要項を公開。会計より完納者の名簿受け取り→投票用紙作成
4月26日（木）	登壇者からの要旨提出。 正式告知（サレ、メール）期限。	
<b>5月26日（土）</b>	<b>年次大会</b>	<b>選挙</b>
6月	会誌発送作業（総務、編集合同）	新運営委員会会議

3. 当日のプログラム（素案）

時間	発表・総会・シンポジウム	選挙
9:30	受け付け開始	投票開始
10:00	発表①	
10:30	発表②	
11:00	発表③	
11:30	総会	
12:30	休憩	
13:30	シンポジウム開始	
15:00頃	シンポジウム休憩	
15:20	シンポジウム再開	投票終了・開票開始
17:00	シンポジウム終了	開票結果報告
	閉会	選出者の顔合わせ（会長選出）
	懇親会へ	

四. 運営委員選挙・監査選出について（武井委員）

選挙管理委員長は徳丸委員に委嘱された。

前回選挙と同様、「即日開票」「シンポ中盤まで投票受付」とすることが決定した。

五. 会計報告（石本委員）

1月末現在の会計が報告された。

六. 新入会員報告・審議（武井委員）

新入会員について、事前にメールで審議された学生1名について報告され、また、一般1名について承認された。

## 七. メールにて審議された議事の記録（武井委員）

前回と今回の運営委員会の間にメールにて審議された議題について、今回の議事録に記録する。

（１）「寄贈先の追加」および「研究機関からの頒布依頼への対応」について（2011年10月17日審議終了）

南山大学附属図書館からの会誌頒布の依頼に対し、及川委員より、会誌が収蔵される機関を増やすという点から、

研究機関およびその附属図書館等で、継続的な配架を前提とするのであれば、バックナンバーを含めて1部ずつを無償で提供することを先方に提案し、新刊刊行ごとの寄贈先リストにも加える。ただし特定の号だけを入れたいということであればその扱いとせず、該当巻号のみを有償で頒布する。という案が発議され、承認された。

これによって、会誌寄贈先に南山大学附属図書館が加わり、既刊分については送付された。

また、今後他の研究機関から同様の依頼があった場合も、これに準じて対応することが合わせて承認された。

（２）「研究会（春季）」および「年次大会」について（2011年11月25日審議終了）

①春季研究会を4月に繰り延べする提案が、承認された。

②関連して、研究会の回数表記について、第19回運営委員会で決定された通り、2011年3月に開催が中止された分にも番号は付して残しておくことが改めて確認された。これによって研究会の開催回数は下記のようになる。

修正前	修正後
「民俗学は政治をとらえうるのか?」：見送りのため欠番	→第9回
「「オーラリティ」の実践と方法的課題」：第9回	→第10回
「公共民俗学とはなにか」：第10回	→第11回
「ローカル・ガバナンスと地域社会」：第11回	→第12回
「社会学・口承文芸学におけるオーラリティ研究の展開」	→第13回

## 八. 次年度計画案・予算案

各委員会より、次年度の計画案および予算案が提示された。これらについては次回運営委員会にて承認し、総会に諮るものとする。

## 九. 次回運営委員会 2012年4月14日(土) 於 東京大学